

六末年竹野浦組五ヶ所内檢地之前ニテ前役関十左衛門實川長兵衛郡代佐久間儀右衛門福泉九郎右衛門与渡置候高帳之内浦代分去ル宝永四年亥十月四日之高潮ニ濡損候旨御代官山口七郎右衛門中村彦左衛門方江願申出候則如前帳面認之相渡申也」と書かれていた。いわゆる元禄檢地帳であるが、これを整理し、検討していくと、当時の浦代の姿が、より鮮明な姿で表われたであろう。

しかし、私にとっては書き写すところまでが精いっぱい、それ以上の事は出来ずじまいであった。

こうしたことから後る髪を引かれる思いを抱いての結びとなった次第である。

図書紹介

日出町誌 本編 B5 一〇三七頁

日出町誌 資料編 B5 一二四二頁

付録として図表一一葉(箱入り)

この二冊は、町誌の監修者として総括の労をとられた富来隆教授より寄贈を受けたものである。

この膨大な本の監修は、大変な御苦勞であったと思われる。先生の「発刊によせて」の言葉をお借りして紹介したい。先生は特長についてこう述べておられる。

「まず、本文編と資料編に分けたことである。本文編はできるかぎり町民の皆さんに読んで頂けるものにしように、心掛けた。資料編は、なお研究したい人たちに役立つよう、手掛りを提供できるように努めた。

もう一つ新しい試みがある。町民の町誌であるために、本文に出てくる地名の索引をつくって、巻末に付したことである。自分の住んでいる所は、どこに載っているか、すぐわかるようにした。

第三は、多彩な執筆陣がしめすように、それだけ複眼的に「新しい道」をきり拓こうとの意欲が滲み出ているとあり、執筆陣も多彩である。富来先生をはじめ、中野幡能・豊田寛三両教授以下大分大、別府大教授、その他郷土史家・小中学校教諭・各種試験場長及び職員などである。

七年の歳月をかけ、衆知を集めて完成されただけに、到れり、尽くせりの観がある。正誤表もついているし、拡大鏡までついている。

(塩月記)